

# データ利活用等のデジタル化の推進による社会課題・地域課題解決のための 実証型研究開発（第3回）

地域レジリエンス向上のための市民協働型データ収集基盤と防災減災・復興支援技術の研究開発

**研究概要：**本研究開発では、徳島県内市町村を対象に、ICTを活用した市民協働型のデータ収集基盤を構築した上で、利用者の属性に適した説明ができる総合知説明型ハザードマップやゲーミフィケーションを取り入れたVR体験型教育コンテンツといった防災・減災向けの技術を開発する。さらに、センシングデータを用いた罹災判定支援技術や仕様案といった復興支援向けの技術を開発する。そして、開発したプロトタイプを体験できるワークショップを通じて、地域の防災レジリエンス向上に貢献する。



①ICTを活用した  
市民協働型の  
データ収集基盤

質問

子どもの下校時に  
地震があったらど  
うしたらいい？



回答1

このルートだと子どもと  
一緒に15分で着きます  
が、危険性は・・・が  
あり、データの精度は  
85%です。



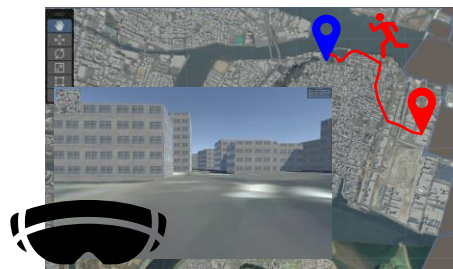
回答2

このルートは子どもと一  
緒にいつも散歩してい  
る道なのでよく知って  
いますが、災害時は・・・

回答3

このルートはAちゃん  
の家の前がある壁が倒  
れる可能性があり、そ  
こに注意をして避難を  
して・・・

②利用者の属性に応じた  
説明ができる  
総合知説明型ハザードマップ



③ゲーミフィケーションによる  
VR体験型教育コンテンツ



④センシングデータによる  
罹災判定支援技術



市民の防災意識の  
醸成、地域の防災  
レジリエンス向上

【研究開発期間】 令和6年度から令和7年度まで

【受託者】 学校法人廣池学園 麗澤大学（代表研究者）、国立大学法人徳島大学、  
独立行政法人国立高等専門学校機構 阿南工業高等専門学校、学校法人常翔学園 摂南大学、  
学校法人大阪電気通信大学